

コピーレスのファイルベースワークフローを実現 metaSANを中核とする合成/VTR出し業務の統合

～ アニメーション制作現場におけるmetaSANの活用 ～

metaSAN

ユーザー事例

東映アニメーション株式会社 様

metaSAN

東映アニメーション株式会社について

東映アニメーション株式会社は1948年に創業。アニメーション制作におけるリーディングカンパニーとして、数多くの名作やヒット作品を生み出してきました。同社はアニメーション作品の制作におけるデジタル撮影業務のインフラシステムとしてmetaSANを導入。11TBのセンターストレージを中心に、RETAS STUDIO/Adobe AfterEffectsによる合成業務を行うMacintoshが3台、BlackMagic Decklinkを搭載しVTR出しを行うMacintoshが1台、そしてMac OS X Serverの合計5台が高速なファイバーチャネルネットワークに接続。metaSANのセンターボリュームを共有し運用を行っています。



制作本部 第一制作部
仕上課課長
片田 利明様

導入の経緯

東映アニメーション株式会社は業界におけるリーディングカンパニーとして、数多くの名作やヒット作品の制作を手がけています。そんな同社が制作するアニメーション作品は日本国内はもとより、欧米をはじめ世界各国で流通・上映されています。近年はブロードバンドを利用した映像配信分野へのビジネスの広がりなど、同社が提供するコンテンツにはますます大きなニーズが生まれています。こうしたコンテンツが生み出される同社において、metaSANは、そのデジタル撮影（合成）部署で導入・運用されています。

「デジタル撮影部署では、前工程で制作されたキャラクターや背景・CGといった素材を受け取り、RETAS STUDIO / Adobe AfterEffectsを使用した合成作業を行います。そして、Apple FinalCutProを使用しVTR出しを行い、オフライン編集工程へとテープを納品します。」(片田氏)

metaSANの導入前、本工程において、同部署ではMac OS Xベースのファイルサーバを利用し、作業者がファイルサーバ/ローカルハードディスク間のファイルコピーにより素材の受け渡しを行う運用を行っていました。合成作業を行うオペレーターは、まず、素材となるファイルを、ローカルのハードディスクへコピーし、作業を行います。作業が終了すると、次はVTR出しの担当者へファイルを受け渡すため、ファイルサーバへデータをコピー。

VTR出し担当者は、これをファイルサーバからローカルのハードディスクへと再びコピーを行い作業を行っていました。

「いちどにコピーを行うデータ容量は決して大きくはないものの、頻繁なファイルコピー業務が発生することにより、本来のアニメーション制作の生産性を妨げていました。」(片田氏)

また、近年、過去に放映したアニメーションの再放送が増加しています。それに伴い、これに対応するための過去素材のキャプチャ/修正作業の業務量が増加していました。過去の素材を全てキャプチャし、現在の放送コードに合わない箇所を修正するプロセスにおいても、頻繁なファイルコピーが発生していました。こういったビジネス状況のなか、同社における既存のファイルサーバ及びVTRシステムのリースアップをきっかけに、運用を含めたシステムの見直しを行うことになりました。

導入のポイント

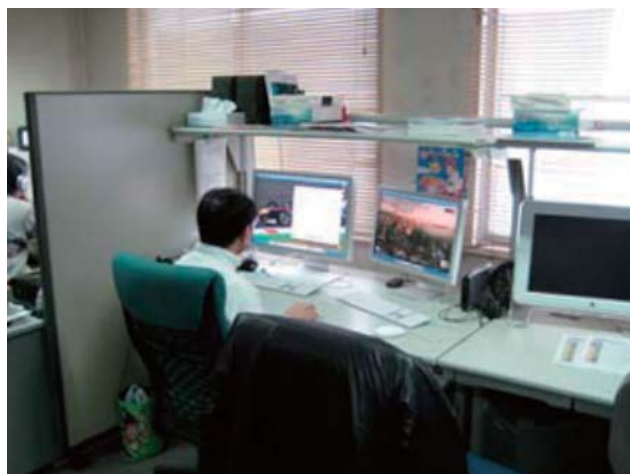
同部署では新たなシステム構築における方針として、独立してそれぞれ運用を行っている合成業務とVTR出し業務を、ひとつに統合することを挙げました。

「合成担当者/VTR出し担当者間の、データの受け渡しに伴うファイルコピー作業が導入前の運用ではボトルネックとなっていました。これを解消するためには、それぞれの作業者が、データを共有し作業を行うためのインフラが必要不可欠だという結論に至りました。この時点で、高速な帯域でファイル共有が可能なSANの採用が決まりました。」(片田氏)

同社がSANの採用を決意した時点で、同部署のMacintoshベースの制作環境への対応が可能なシステムはApple社 XsanとmetaSANの2種類しか選定候補はありませんでした。社内でも比較検討を行った結果、最終的に同社はmetaSANを選択しました。

「metaSANを選定した最大の理由は価格面の優位性です。Xsanの場合、MDC (Meta Data Controller) ・ファイルサーバ・LDAP用に、それぞれ単独のサーバを準備する必要がありました。MDCに関してはメイン・サブで2台が必要でした。そのため、Xsanで普通にシステムを構築するとすると、サーバを4台用意する必要があります。しかしながらmetaSANはMDCとファイルサーバ、LDAPのそれぞれのサービスを1台のサーバで兼用できます。これにより、導入コストに圧倒的な差が出ました。また、システム構成が複雑になると、システムのメンテナンスや障害の切り分けにも、より多くの時間やコストが要求されます。よりシンプルな構成がベターであると考えました。」(片田氏)

専用のMDC構築が求められず、よりシンプルな構成で導入が可能なのも、同社がmetaSAN に決定した、ひとつのポイントとなりました。



導入、その効果

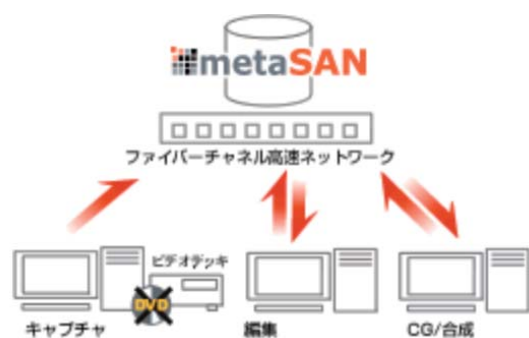
metaSANの導入後、同部署ではセンターストレージ上でファイル共有を行いながら、作業を進める運用がはじまりました。合成作業を行う担当者は社内各部署が共有するメインサーバから素材をmetaSAN上へコピーし、そのままストレージ上で合成作業を進めます。これにより、ローカルのハードディスクへのファイルコピーを行う必要がなくなりました。また、合成作業の終了後、VTR出しの担当者はストレージ上のファイルを、そのまま直接開き、作業を進めます。

「従来は、合成作業の担当者がファイルサーバへとデータをコピーしていましたが、その工程がなくなりました。また、metaSANのセンターストレージは高速な帯域で、ローカルのハードディスクのような感覚で利用が可能です。そのため、VTR出しの作業も、コピーを伴わずストレージ上で行うことが可能になりました。」(片田氏)

これら、metaSANのセンターストレージ上での運用により、同部署では当初の目的であった合成業務とVTR出し業務を統合。この新しいワークフローにより、従来、頻繁に発生したファイルコピーに伴う作業工数を削減し、より生産性の高いアニメーション製作環境の構築を実現されています。



シンプルに構成されたmetaSANシステム



高速ネットワークによりデータのアップ/ダウン不要
ストレージ上のファイルシェアによる一元管理を実現

ビジュアル・グラフィックス株式会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-27-11 祐真ビル本館 5F

Tel : 03-6805-0481 Fax : 03-3797-9771

URL: <http://www.vgi.co.jp> Email : vgi@vgi.co.jp



Visual Graphics Inc.